

令和6年度 保育現場の魅力向上支援事業 報告書

担当社労士 和田 直樹

訪問対象

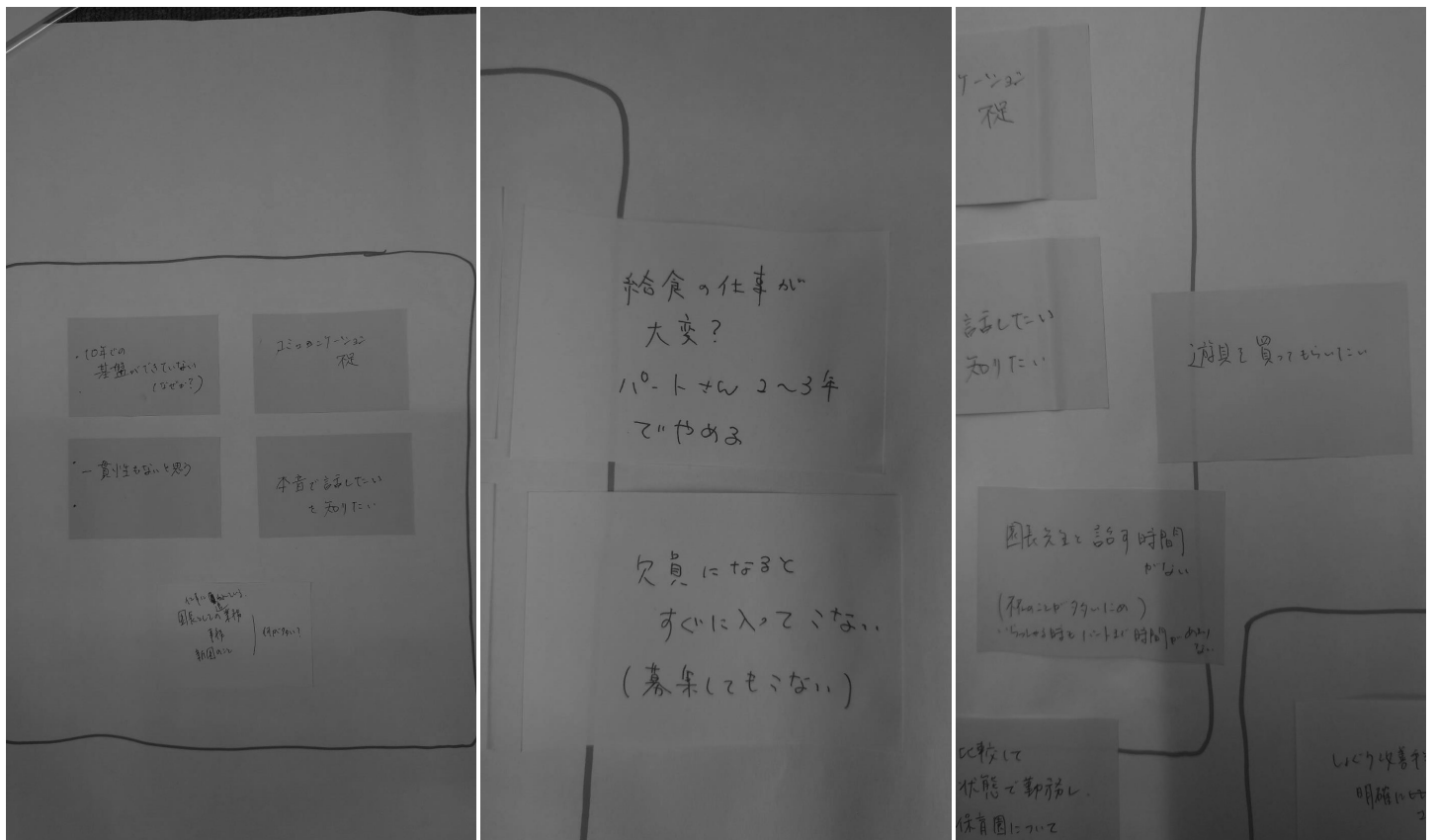
- 地域型小規模A型（開園10年目）
- 保育士10名、調理員4名
- 応募動機:なかなか職員が定着せず、今後、継続して定着してもらうためにどのような取り組みが必要か悩んでいる。

支援計画

- ① 現状のヒアリング
- ② 園の課題(問題点)および原因を認識する
- ③ 課題に対する解決策を検討する
- ④ 結果の確認、今後の取組みについて

課題認識

- 職員2名に対してワークを実施。
 - ① 自分が考える園の課題を付箋に書き出す。
 - ② 付箋を模造紙に貼りながら発表する。
 - ③ 課題をグルーピングしながら原因を追究する。
- 職員から出された課題を園長と共有し、認識を深める。



重要課題

• 保育理念が共有されていない

- 「10年での（保育の）基盤ができていない」「（保育の）一貫性がない」
- 「（園長の）本音を知りたい」「（職員が）欠員になるとすぐに入ってこない」

• 園長とのコミュニケーション不足

- 「園長先生と話す時間がない」「遊具を買ってもらいたい」

保育理念の作成・共有

- ① 園長が考える保育理念(保育方針、目指す子ども像)をまとめ職員に説明する。
- ② 職員が考える保育理念について意見を提出してもらう。
- ③ 職員の意見をふまえた上で見直しを行い、お互い納得できる(理解できる)保育理念を作成・共有する。

開園から現在までの保育理念・保育方針

- 自立した子ども
～子どもたちは、主体的に過ごせる環境の中で自分で考え、取り組む経験を繰り返します。
↓心豊かな子ども
～活動や環境を通して、様々な経験を通して心が育ちます。
- 思いやりのある子ども
～異年齢の子どもたちが一緒に生活する中で、思いやりの気持ちや優しい心を育みます。

◎園内さんが思う、これからの、てりは子どもの家の育てたい子どもたちとは？

<目指す子ども像> 笑顔あふれる子ども / 個性豊かな子ども / 思いやりのある子ども

- 「子ども一人ひとりの心を大切にしたい」子ども一人ひとりが愛されていることを実感しながら日々を過ごしてほしい
- 心の樹っこに「自分は愛されている」「自分は必要とされている」という自己肯定感を根付かせていくことが、人格形成において最も大切と考えます。
- 愛されている実感をもちつことで心が満たされ、自分を大切にでき、他者への思いやりの気持ちをも育むことができます
- 心の根を育て、自己肯定感を育むことで枝葉を伸ばし、将来色とりどりの花を咲かせてほしいと願っています

◎てりは職員が思うそでたいこどもたちは？

- ・ 小規模というより家庭に近い環境を生かし、今後も子供たちがゆったりとリラックスして過ごせるよう環境を整えていけたらと思います。
- ・ 年齢的に、園にて初めての経験をする事が多いと思うのでいろいろとやってみることが楽しい、面白いと思えるようなこどもになってほしいと思います。
- ・ 子ども主体の保育をし、自立した子どもになるよう見守っていく。
- ・ 自己肯定感を育んだり、小規模ということでより一人一人に寄り添った関わりができればな（その中で自立を促したり・・・）と思います。
- ・ 未満児の子どもにとって「遊び」「信頼関係」をしっかり築いた保育！保護者との信頼も取っていく。

保育理念の浸透・発信

- 保育理念を職員に浸透させるため、また園外に発信するために保育理念を入れ込んだパンフレットを作成。

- ① 職員に配布
- ② 保育園説明会等で保護者に配布
- ③ 職員研修に活用
- ④ 採用活動に活用 等々

てりは子どもの家 園長 宮内直幸

てりは子どもの家 保育理念・目指す子ども像・保育方針

<保育理念>

「子ども一人ひとりの心を大切にしたい。」

子ども一人ひとりが愛されていることを実感しながら日々を送ってほしい

- 心の根っこに「自分は愛されている」「自分は必要とされている」という自己肯定感を付けていくことが、人格形成において最も大切と考えます。
- 愛されている実感をもち、心が満たされ、自分を大切にでき、他者への思いやりの気持ちをも育むことができます。
- 心の根を育て、自己肯定感を育むことで技能を伸ばし、将来色とりどりの花を咲かせてほしいと願っています。

<目指す子ども像>

- 自立した子ども
- 笑顔あふれる子ども
- 思いやりのある子ども

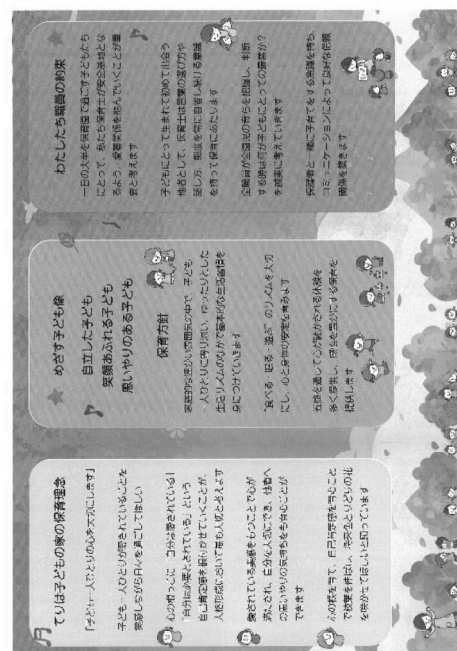
<保育方針>

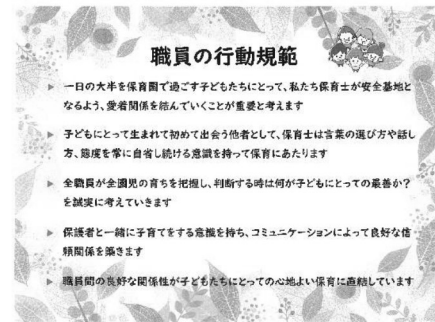
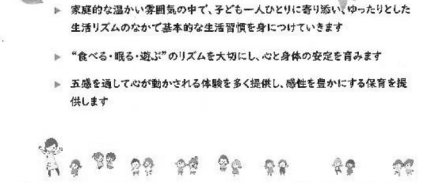
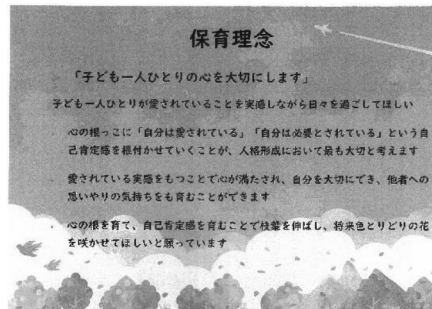
家庭的な温かい雰囲気の中で、子ども一人ひとりに寄り添い、ゆったりとした生活リズムのなかで基本的な生活習慣を身につけていきます。

“食・眠・遊ぶ”のリズムを大切に、心と身体の安定を育みます。
五感を通して心が動かされる体験を多く提供し、感性を豊かにする保育を提供します。

<教員の行動規範>

- 一日の大半を保育園で過ごす子どもたちにとって、私たち保育士が安全基地となるよう、愛着関係を築いていくことが最優先と考えます。子どもにとって生まれて初めての出会い先として、保育士は言葉の遊び方を話し方、態度を常に自省し続ける意識を持って保育にあたります。
- 全職員が愛着形成の育ちを担い、判断する際は何が子どもにとっての最善か？を誠実に考えていきます。
- 保護者と一歩に子育てをする意識を持ち、コミュニケーションによって良好な関係を築きます。
- 保育園の良好な関係性が子どもたちにとっての心地よい保育に直結しています。





まとめ

- 今回、園の課題認識、原因追及を行い、「保育理念が共有されていない」という課題に対して、保育理念の作成・共有に取り組めました。
- 外部の専門家の意見を聞きながら課題に取り組むことができ、非常に参考になったとのことです。
- 保育理念を明確に示すことで、職員の採用、定着にもつながってくるのではないかと思います。